

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成 21 年 5 月 27 日

審査機関名 株式会社日本スマートエナジー

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	温泉旅館「山水閣」における木質ペレット式ボイラー転換による CO2 削減事業
排出削減事業者名	株式会社 山水閣
排出削減共同実施事業者名	丸紅株式会社 (その他関連事業者名：株式会社ネクspa)
事業実施場所	温泉旅館 山水閣 (栃木県那須郡那須町大字湯本 206 番地)
事業の概要	温泉旅館の温浴施設用熱源を灯油焚ボイラーからペレット式ボイラー (バイオマスボイラー) に転換することにより、燃料コスト削減と同時に排出削減を図るものである。
排出削減量の計画	256 t CO2/年 (事業実施期間合計 1,024tCO2)
国内クレジット認証期間	開始日 2009 年 4 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：温泉旅館 山水閣</p>
追加性を有すること	<p>1)本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを、削減事業実施者（山水閣）関係者及びその他関連事業者（株式会社ネクspa）関係者への質問等により確認した。</p> <p>2)排出削減事業の投資回収年数については、入手した根拠資料、質問および検算により全体で 18.3 年であることを確認し、投資回収年数計算の根拠データにつき、関連証憑と突合することにより正確性を確認している。</p> <p>また、本件の事業者である株式会社山水閣は、環境問題、文化遺産保存の意識が強く、本事業も日本建築の保存と環境を意識した温浴施設の設立を目指している。更新前に使用していたボイラーはエネルギー源が灯油であり、その CO2 排出量も多く、事業者としては以前から化石燃料削減の機会を探していた。本事業では認証獲得等により環境対応を強くアピールすることが目的となっており、国内クレジット制度の活用によって、大きな CSR 効果を得られる見込みであることが投資の一因となった。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>自主行動計画への参加の有無について、排出削減事業者への質問、所属している業界団体への質問により、確認を行った。現地調査でのヒアリング（株式会社ネクspa）により、事業者が業界団体に所属しておらず、自主行動計画に参加していない事を確認した。</p>

<p>排出削減方法論に基づいて実施されること</p>	<p>1)本排出削減事業は、承認排出削減方法論 001「ボイラーの更新」に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることをそれぞれ確認している。</p> <p>2)本事業が実施できない場合には、既存の設備が継続的に使用されることを質問、関連資料の閲覧、及び事業サイト訪問時の確認（既設設備が現在もバックアップボイラーとして稼働している）等により確認している。また、いずれの設備も法定耐用年数の2倍を超えていないことを確認している。</p> <p>適用条件1については、本事業はペレット式ボイラーへの更新のためボイラー効率の改善については不問であり、また実際にペレットボイラーが導入されている事を現地審査の際に確認している。</p> <p>適用条件2については、設備導入時期、法定耐用年数より、既存ボイラー設備が未だ使用可能であることを確認している。また、既設ボイラーは事業実施後もバックアップボイラーとして使用されており、現地審査の際に現在も継続して使用されていることも確認した。</p> <p>適用条件3については、更新後のボイラーで生産された蒸気または温水を自家消費する事を、現地審査及び提出された資料により確認した。</p> <p>また、本排出削減事業により生じるバウンダリー外での温室効果ガス排出に起因するものとして、ペレットボイラー導入による追加的な補機動力、及びペレットの輸送が考えられ、これらによる排出量を算定した。その結果、排出削減量の5%未満であることを確認し、リーケージを考慮する必要はないものとした。</p>
----------------------------	--

4. 特記事項

投資回収年数については、補助金を除いた純投資額をもとに算出している。